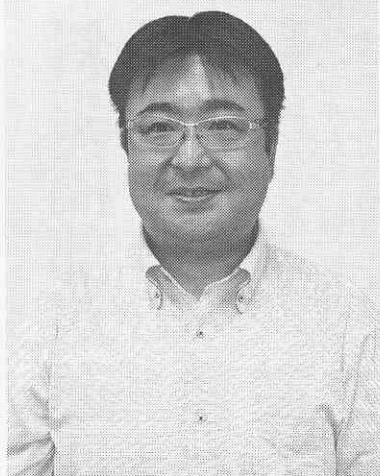


橋に魅せられて



(株)駒井ハルテック

工事本部
橋梁工事部長

森川 友記 さん 「安全は最大の営業」

「安全は最大の営業なので、まずは職員が働きやすい環境を作ること。精力的に現場に向き、困り事を聞き出して未然に排除するように注力しています」
関西大学在学中、阪神淡路大震災の被災地で支援活動に参加。壊れ果てた構造物とともに、そびえ立つ明石海峡大橋を目前にしたことから、坂野昌弘教授の鋼構造研究室へ入り、鋼橋への道を開いた。低サイクル疲労についていち早く着目した同研究室で、日々構造解析と、疲労実験を夜通し行いながら、橋梁を肌で感じたという。

思い出深い橋は、初めて他社とのJVで所長となった福岡都市高速の504区間の現場。橋脚から鋼桁まで、建物が密集し、交通量も多い都心部での架設なので、工事量も、やりとりする人間の数も規模が違った。他方、これまで代理人として赴任した11現場を振り返り、「すべての現場で無事故無災害が達成できた」とは何よりありがたいと思います」と爽やかに話す。

日頃全国を飛び回り、帰宅できないため、週末は早朝から家族に手料理を振る舞う。食べ盛りのお子さん3人は父のバラエティ豊富で愛情いっぱいメニューが大好きなのだとか。「帰らなくても何も文句を言わず、支えてくれる家族が心強いですね」。

三重県出身の43歳。

グと製鋼スラグは、早ければ年内、遅くとも来春までに、ISO(国際標準化機構)規格になることが固まった。

今年、ISO規格化への取り組みに発展する発端は、JIS Z 0312 プラスト処理用非金屬系研削材に規定される前記2種類の、研削材のISO規格化によって、結果的にISOとJISの両方に対応する研削材と評価する関係



(左から)ISO規格化に取り組んだ荻原・濱崎・齊藤・松岡・坪根の各氏

製鋼スラグ研削材供給元の「愛知製鋼」(本社・愛知県東海市)、フェロニッケルスラグ研削材供給元の「大平洋金属」(本社・青森県八戸市)と「山川産業」(本社・兵庫県尼崎市)の3社は、JIS原案作成委員会の委員としてJIS改正活動とともに、委員会事務局の日本防錆技術協会と連携して13年からISOの規格化に取り組んできた。

これまで海外のワーキンググループ(WG)に足を運ぶこと3回を数えた。WGで課題とされたのは、既存のISO規格で代用できるのではないかと指摘だったが、既

政府の「インフラメンテナス大賞」第2回受賞者が決まった。国土交通省などが、事業者、団体、研究者などの優れた取組や技術開発を表彰し、広く紹介すること

【国土交通大臣賞】
▽日本大学大学院工学研究所(みんなど守ろう。「橋のセルフメンテナンズふくしまモデル」の構築と実践)
【優秀賞】
▽京都マテリアルズ、長瀬産業(さびの「診断」と反応性塗料の「処方」による鉄鋼インフラの長寿命化技術の開発)

安定供給が可能

8月4日は「橋の日」

発祥の地・宮崎で記念イベント

8月4日は「橋の日」。宮崎県発祥の記念日で、宮崎市の大淀川に架かる橋橋で今年も橋への感謝を表すイベントが開かれた。

会社より スト
多い 家事手伝
PC材 オレも
伸びしろが

草土ピーエ

橋梁通信社では短歌俳句川を掲載します。応募は編集部まで、お問い合わせはお気軽に